

浪商幼稚園関係者の皆様

大阪体育大学浪商幼稚園  
園長 松井 美奈子

## 令和5年度 学校評価について(報告)

堤防の桜の蕾も膨らみ、本格的な春の到来が近いことを感じる季節となりました。皆様には今年度も本園教育にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。

さて、本園の教育活動および幼稚園の運営について学校関係者評価委員会のご意見を踏まえ、今年度の学校評価を行いましたのでご報告します。

※学校教育法第42条・第28条(準用)、学校教育法施行規則第66条~68条・第39条(準用)に基づき、教育活動その他の学校等の運営の向上に資するため大阪体育大学浪商幼稚園学校関係者評価委員会(以下「評価委員会」)を設置しています。委員会は、保護者代表・卒園生代表・卒園生保護者代表・地域学校代表で構成されています。

### 1. めざす人間像・教育目標

#### めざす人間像

変化の激しい社会においても活躍でき、人が人らしく暮らす社会を創造できる人

#### 学校法人浪商学園100周年ビジョン

人が人らしく幸福に暮らす社会を創造する教育

#### 浪商幼稚園教育目標

「心も身体もたくましく」

- 遊びや体験活動を通して未来を生き抜く力の土台となる「心」と「体」を育む
- 伝統的な特色=体育理論に基づいたスイミングや体育あそびによる体づくり

日本の文化や伝統に親しむ行事やお茶会

グローバル社会に応じた特色=本園開発の英語カリキュラムによるイメージョングラス

特色ある教育を通じ、めざす人間像を実現するための基礎作りをおこなう

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 平成29年告示 幼稚園教育要領

「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」

「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」

「数量・図形、標識や文字などへの感心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」

### 2. 本年度の重点目標、代表的な取り組みと今後の対応

#### 1. 教育課程・指導

##### 【豊かな体験 できる体験】

○本園は1年間を通して何事も自分の力でできるようになることを目指した教育・保育を貫いています。身辺自立を図ること、周囲の状況を見て判断して行動できること、協応動作ができること等々、

教員は常に意図的な関わりをしています。本年度幼稚園小学校合わせて6校園の視察を受けましたが、緩急切り替えられる園児の行動や、一つ一つをきちんとやりきれぬ園児の姿に称賛の声をいただきました。

- 本園の特色のひとつである「身体づくり」は「身体」の「たくましさ」だけでなく「心」の「たくましさ」を育成することもねらいとしています。大阪体育大学の運動理論に基づいた「体育あそび」は2名の指導員が週に各1回指導し、スイミングは年間各学年28～29回行い、どの子ども、運動能力の向上はもちろんのこと、諦めずに挑むことで「できた体験」で達成感を得、「強い心」の育成につなげることができました。



10月19日の東雲運動広場での運動会では、演技・競技だけではなく、全員で一つのものを作り上げる達成感と自己効力感に満ちた子どもたちの姿を見ていただけたことと自負しています。

- 年々気象条件が厳しくなる中ですが、本年度園外保育は15回予定しました。色の変化や自然の恵みを楽しみ、自然の中にある音・形・色に気づく体験は、思考力・判断力・表現力の基礎となるものです。徒歩通園の子どもにとっては、園バスに乗ることも非日常の体験です。今後も特色ある取り組みとして気候の良い季節を選び継続していきます。

- 茶道表千家の作法による「お茶会」は70有余年本園が守り続けてきた取り組みです。子どもたちはお茶会の静粛な空気を感じながら発達段階に応じて作法を学びます。二十四節気のうち、七夕・月見・正月・桃の節句にお茶会を行い、日本の伝統文化に親しみました。



また、本年度は谷岡宗鶴先生による希望する保護者対象のお茶会を初めて行いました。

- お茶会だけでなく、現代では消えつつある日本の季節の行事や遊びの文化伝承も本園で大切にしていることのひとつです。日本の伝統を誇りにしながら、グローバル社会で活躍できる人として育つことを今後もねらいのひとつとしていきます。

- 「英語で遊ぶ、英語で感じる」をコンセプトに平成24年度のプレスクールから始まったイマージョンクラスは今年度で12年目となります。2月の劇あそびの練習では、年長児クラスでネイティブ教員と英語でディスカッションをして台詞や動作を考える姿がありました。言語脳の育つ時期に英語のシャワーを浴びることで、ネイティブの子どもたちと同じ言語習得のプロセスを経ていることがわかる場面でした。また、本園のイマージョンカリキュラムは園生活に応じて語学習得メソッドを組み立てた独自のものです。本年度より他府県のパイロット園にカリキュラムの提供を開始しています。



- 幼稚園全体のクリスマス会にはプレスクールのチューリップクラスの子どもたちも参加し、プレのネイティブと一緒に「Ring those bells」の演奏と踊りを披露してくれました。貴重で素敵な異年齢交流の機会となりました。

■学校関係者評価委員会では、本園の教育内容について高い評価をいただきました。これからはますます変化予測ができない時代になっていきます。委員からは、社会がどのように変化しても、逞しく生き抜ける力を育成して欲しいとの言葉をいただきました。

また、全園児による行事や預かり保育、園庭あそびの中で異年齢が自然な関わりができていることも浪商幼稚園の良いところだ、異年齢交流の場が増えればより望ましい、とも述べられました。  
⇒本年度乾布摩擦を廃止するなど常に指導内容の見直しを行っています。今後も前例踏襲ではなく、子どもの成長に繋がるか否か、即ち、本園の教育目標「心も身体もたくましく」を達成するために有益かどうかを判断基準の一つに教育活動を進化させていきます。

## 2.安全管理

### 【安全・安心な園づくり】

○本年度、安全管理面では大きく2点、安全・安心の推進に繋がる取り組みを行いました。

一つ目は4台の園バスへの置き去り防止システム「まろくんエース」の設置です。本園はかねてより、運転手と職員で二人ひと組の乗車、アプリを活用したバス停ごとの園児の把握、降車後の点検を行っていましたが、システムの設置により一層安全・安心が増したと評価しています。



○二つ目は、門の開閉システムの変更です。これまでも正門には警備員が常駐していましたが、加えて登降園時間帯以外は閉門することとしました。また、砂場横の通用門を降園時のみ開門することとしました。これにより北方向より徒歩で登園される方には正門まで回っていただくこととなりましたが、ご理解ご協力いただくことができました。

○保護者の方には登降園含め来園の際は保護者証の携行をお願いしていますが徹底してご協力いただいております。これは不審者侵入の抑止として大変心強いご協力となっています。

○将来子ども自身が「自分で自分を守る力」また「みんなでみんなを守る力」を育成するために、7月と12月にそれぞれ地震、火災、津波を想定した避難訓練を行いました。全ての園児が教員の指示と誘導の元、整然と避難・整列することが身についています。避難の際の合い言葉の「お・か・し・も」も年中・年長児は定着しています。また、9月1日の防災の日に合わせ絵本を用いて「身を守る行動」の定着を図りました。12月には、津波を想定し、東市民体育館まで垂直避難訓練も行い速やかに9分で避難することができました。



2月14日に発生した震度3の地震は、放課後の発生で園には預かり保育と課外のサッカー教室の園児がいるのみでしたが、教職員・コーチの指示で泣くことなく迅速に避難行動をとることができました。訓練の成果と評価しています。

○年長クラスでは茨木警察の協力により交通安全指導教室を開催し、シミュレーション訓練を含め安全な歩行を学びました。

○5月8日に新型コロナウイルス感染症にかかる取り扱いが変更されたことを受け、給食時のパーティーションの撤去、バス乗車時の手指消毒



の解除、お誕生日会の歌のプレゼントの復活をしました。しかし、一般の**感染症対策と衛生習慣**として、手洗い・うがいの励行と給食時の手指消毒は今後も継続して行う予定です。

■学校関係者評価委員会では、実際の地震の際に適切な避難行動が取れたことは訓練の成果であると評価を受けました。幼稚園段階では、泣かずに大人の誘導指示に従うことが最も大切だと園としては考えています。「訓練は本番のように、本番は訓練のように」行動できる力を今後も育成して欲しいと委員より願われました。

⇒今後も関係機関と連携し、安全意識の育成・安全行動の獲得のため、安全教育を進めていきます。また、安全管理の推進も図っていきます。

### 3. 保護者・地域・関係機関との連携

#### 【 地域とつながる 専門機関とつながる 】

○コロナを機に家庭訪問をゼロベースで見直し個人懇談を持つ方法に変更しています。本年度は3回の個人**懇談**と新入園児対象のクラス懇談を持ちました。保護者の方に園での生活・活動を観ていただく機会として、5回の**参観と運動会・劇あそび**を持ちました。また1回目のスイミング参観の折に保護者の方同士で親睦を深めていただく保護者交流会を設定しました。



○今年度も地元の2中学校(平田中・東雲中)からの**職業体験**を受け入れました。園児が「おにいさんおねえさん」に親しみや憧れを感じたり、未来展望を持つこと、また中学生が園児と関わることで自分の成長過程を振り返ると共に自己有用感を感じることは、双方にとって大きなメリットです。本園の地域貢献ともなる取り組みですので今後も積極的に地域学校との繋がりを深めていきたいと考えます。小学校とも教員同士の連携の機会を持っていますが、より連携を深める方法を検討していければと考えます。



○茨木市役所子ども育成部を通じ、**梅花女子大学伊丹昌一教授**の巡回指導を2度受けることができました。園児への指導方法についての助言を受けるものでしたが、本園の様々な指導や環境調整が構造化され、「できる体験」となるよう意図的に仕組まれていることについて評価いただきました。また、子ども育成部を通じて発達心理士とも連携を図ることができたのも本年度の大きな成果です。

○**キンダーカウンセラー**の小川万希子公認心理師には今年度13回来園いただき保護者等の相談や新入予定園児保護者講演会、職員研修を行っていただきました。キンダーカウンセラーだよりを通し子育てのヒントなども発信していただき保護者の大きな心の支えとなっています。

■職業体験については、学校の立場の委員から、「受け入れのみならず、特技を全園児の前で披露する場を与えてもらえともありがたい」と感謝の声をいただきました。中学生の中には卒園生もあり、原点回帰が自分の生き方を考え進路を選択することにも繋がっていく、とのことでした。また、委員会では、本年度より育友会が廃止されたことから、以前に増して園側が保護者間の繋がりがづくりのきっかけを作ることが必要になっているのでは、との声もありました。加えて、浪商幼



稚園の良さを地域に知っていただける機会があれば望ましい、とのご意見もいただきました。

⇒れんらくアプリの導入によって保護者教員間の細かい連絡が取りやすくなりました。活用を進める一方で、困りごとや不安なことを気軽に相談できるよう保護者との関係作りにより努めていきます。また、保護者同士の横の繋がりがづくりは今後の検討課題の一つと認識しています。

晩秋に地域の方から、園スタッフが毎早朝、道路の落ち葉掃除をしていることに対して頭が下がる、と声を頂戴したことがありました。地域からはマナーや車についてなど厳しい声をいただくことの方が多いのでプラスのお声は大変嬉しく思いました。本園と地域との繋がりがづくりや、本園の地域貢献に繋がる取り組みは今後模索していきます。

昨今、子育てに関する施策が目まぐるしく変化しています。アンテナを高くし、行政情報を得ると共に、保護者の思いやニーズの把握に努め、本園の教育理念との合意点を探っていく必要があると考えます。

#### 4. 情報発信

##### 【 情報は鮮度が命 】

○園での子どもたちの様子を伝えるホームページのブログはできるだけ時間をおかずに発信するよう努めています。発信の回数は昨年度より増え、保護者の方から「様子がよく分かってよい」との声も直接いただきました。ただ、プライバシー保護との兼ね合いがあり、使用できる写真は顔検索ができない画素にする等制限があります。次年度はより工夫して伝えていきたいと考えています。



○各学年のたよりや体育あそびのふりかえりなどはれんらくアプリを活用して発信しています。今後も目的と必要度に応じて、紙媒体で伝えるもの、アプリ等で伝えるものを吟味していきたいと考えます。

■保護者の立場の委員からは、ホームページのギャラリー・ムービーは ID・パスワードがあるので安心である、との声をいただきました。園としては子どもたちの素敵な表情も含めて発信したいのは山々ですが、世界中を情報が駆け巡る時代だからこそ慎重を期すべき部分は慎重を期すべき、と考えています。

⇒今のホームページに変更して約3年になります。この間に行事の内容など変更になった点もありますので、情報が古くならないよう今後も定期的に見直していきます。

課題はホームページ以外の発信方法です。ホームページはアクセスした方にしか見ていただけません。浪商幼稚園のことが受け身の方にも届くような方法を研究していきます。



保護者に浪商幼稚園を選んで良かったと思ってもらえ、子どもが浪商幼稚園出身であることを誇りに思えるよう、今後も「幼児期の終わりまでに育ってほしい力」を育てる教育の実現を目指し、教職員一同、努力と研鑽を重ねる所存です。ご理解ご支援をよろしくお願い致します。